全日本ジュニアバドミントン選手権大会または国民スポーツ大会と県新人戦広島地区予選会の
日程が重なってしまった場合の県大会出場者決定について

- ① 全日本ジュニアバドミントン選手権大会および国民スポーツ大会出場者はその種目において地区の第1位として選出する。
- ② 全日本ジュニアバドミントン選手権大会および国民スポーツ大会にダブルス出場する選手のシングルスおよびシングルスに出場する選手のダブルスに関しては監督会議で検討の上順位を決定する。
- ③ 次年度の県総体予選の推薦選手は、地区大会4位までの者、全日本ジュニアバドミントン選手権大会および国民スポーツ大会出場者で県への提出名簿の順位が4位までの者とする。
- ④ ①～②に関連して県大会出場者決定は以下の通りとする
男子・女子ともそれぞれ、次の成績のものが県大会出場の資格を有する。

ダブルス上位32組

シングルス上位40名

規定

- ①ベスト32を選出するマッチで敗戦した選手のうち、ゲーム率の高い選手から選出する。
例) 1ゲーム取得して負けた場合 $1 \div 3 = 0.33$
ゲームを取得せず負けた場合 $0 \div 2 = 0$
- ②ベスト32を選出するマッチで敗戦した選手のうち規定の①で同率であった場合、取得得点の総計が多い選手を選出する。
ただし、ゲーム途中の故障で棄権となった場合は、棄権したサイドの得点は故障発生時の得点を生かし、その後相手の勝利が決定するまで、相手が連続して点を取ったことにする。
- ③規定①、②でどちらも同点となった場合は、該当選手のひと試合前の結果を④、⑤の規定に照らし合わせる。
- ④ベスト32を選出するマッチのひと試合前のゲーム率の高い選手から選出する。
- ⑤ベスト32を選出するマッチのひと試合前の総失点数が少ない選手から選出する。
- ⑥①から⑤の規定に照らし合わせ、同点であった場合は抽選とする。

⇒ダブルス：32 枠出場だが、ベスト16 をかけた試合で敗れた選手の中で、規定に則って得点の低い組を選出する。そこで31組県大会出場の場合は2組、30組県大会出場の場合は4組を選出し、決定戦を行い、勝者を県大会出場とする。ただし、4組選出した場合は抽選で組合せを決める。

⇒シングルス：40 枠出場のため、ベスト32を選出する選手の中から規定に則って不足分の選手を選出する。通常は8人を選出するが、全日本ジュニアバドミントン選手権大会および国民スポーツ大会出場の手数を踏まえ、人数を調整する。